

# 語り継ぐ

# 「平和への思い」

終戦から64年目の夏を迎えました。  
先の大戦、過去の戦争では、本市出身の2923人を含む全国約3000万人余りの若く尊い命が犠牲になりました。愛する家族との再会を夢見たまま命を奪われた戦没者の無念はもろろん、かけがいのない肉親を奪われた悲しみは、今もなお遺族の心の中に深く刻まれています。  
この悲劇を二度と繰り返さないために、語り継ぎたい「平和への思い」。



## 「インタビュー」 尽きることものない遺族の悲しみ



庄原市遺族連合会  
井澤 聖昭 会長

昭和13年3月生まれ。25歳から庄原市遺族会青年部で活動を始め、県や中央役員などを務める。平成8年庄原市遺族会長。平成17年から庄原市遺族連合会長。日本兵約19万人が戦死したミャンマーに、「学校建設を通して平和貢献を」と全国に募金を呼びかけ、小学校3校を建設。長年の援護事業が認められ平成14年に厚生労働大臣表彰を受賞。青少年健全育成活動を34年間続け、平成19年に警察庁長官表彰を受賞。

だが、父親を戦争で亡くした子は2人しかいませんでした。当時は母子家庭の子を「ててなし子」と呼んで、いじめや差別を受けました。  
祖父は私が試験勉強をしていると

「お前は跡継ぎとして農業をするんだから、勉強なんかしなくてもいい」と言って部屋の電気を消しました。そのことがものすごく悔しかったです。  
庄原実業高校比和分校へ進み、農家を継ごうと思っていたところ、祖父が事故で急死。この先どうすればよいか途方にくれました。父のお墓に行つて何度も相談しました。そこに遺骨がないのは分かっていましたが、お墓を抱いて一人で泣きました。「父がいてくれたら」「悔しさを寂しさがこみ上げてきました」。

分校の先生から「この先、農業だけでは生活が苦しくなる。どこかに就職した方がいい」と勧められるなど、農業の道をあきらめて就職試験を受けることにしました。当時は母子家庭の就職差別があり、それでも悔しい思いをしながら、庄原市へ出て民間会社に就職しました。

「戦争さえなかったら……」。ことあるごとに戦争を恨みました。戦争で父を失ったことで、つらい思い、寂しい思い、悔しい思いをしてきましたが、これは私だけではなく、すべての遺族が感じてきた思いです。しかし、私はぜひぶん地域の人に助けられました。「人

間には浮き沈みがあるから、決して非行に走ってはいけません。とにかくがんばれ」と絶えず励まされ、そして今日があると思います。

### 平和への思いを次世代へ

地球上ではいまだに戦争や紛争が絶えませんが、日本では64年間戦争がなく平和が続いています。これは本当にすばらしいことです。そこには、鉄砲の弾もなければ、食べるものもない中、ひたすら祖国の繁栄と家族の無事を願い、玉碎覚悟で自らの命を捧げた多くの犠牲者がいることを忘れてはいけません。

ここ5、6年、庄原市の戦没者追悼式並びに平和祈念式典に小中学生が参列してくれています。また、会場に來られない学校は折り鶴を折ったり、平和への思いを寄せ書きしたり、アトラクションとして中高生が吹奏楽を演奏するなど、いろんな方法で子どもたちが参加してくれています。

平和への思いを次世代へ引き継ぎたいと思っている遺族にとつて、このことを大変うれしく感じています。1年に1度、わずかな時間であっても式に参列し、献花することで、平和の尊さを肌で感じる事ができると思えます。これからも、子どもたちをはじめ多くの市民の皆さんに参加してほしいと願っています。

### ボルネオ島で戦病死



私の父は、比和町森脇から昭和19年7月23日に出征しました。当時36歳。召集令状が来たのです。北九州の門司港から南方へ向かい、フィリピン・マニラに上陸。その後、現在のマレーシア・ボルネオ島に渡り、昭和20年2月24日、マラリアで戦病死しました。

当時、私は小学校1年生でした。正直、父の記憶はほとんどありません。鮮明に覚えているのは、叔母が森脇小学校に私を迎えに来て、背丈ほどある雪をかき分けて家に帰ると、親戚や近所の人がたくさん集まっていたこと。戦死公報が入り、父が亡くなったことを知りました。しかし、小さかったこともあり、国のために犠牲になったんだという思いで、寂しいとか悔しいと

いう感情はありませんでした。それからしばらく経って、三次市へ父の遺骨が帰つたと聞き、母が受け取りに行きました。しかし、そこに父の遺骨はなく、木箱の中に砂袋と位牌の代わりとなる木札のみが入っていました。母は私たち子どもの前では涙を見せず、歯をくいしばってがんばっていました。父は大工だったので、母方の祖母に「戦争から帰つたら、天井を貼ってあげる」と言っていました。祖母はその言葉を信じて、「必ず帰つて来る。それまで天井は貼らない」と、戦争が終わってもしばらくの間、父の帰りを信じて待っていました。亡くなった父の姿を見ていないので、何かの間違いでひょっこり帰ってくるのでは？と思っていたのでしよう。

### 父がいない寂しさ

父が亡くなってから、祖父が父親代わりをしてくれました。4人兄弟の長男ということもあり、小学校3年生くらいになると、牛の世話や農作業、炭焼きの手伝いをさせられました。そして、早く社会人の経験をさせて一人前にしようと、秋祭りや葬儀など組合の勤めに駆り出されました。周りの子たちと違う環境に、小学校高学年から中学校にかけては、父のいないわびしさや寂しさを日増しに感じました。

森脇小学校の同級生は25人いまし

## 庄原市戦没者追悼式 並びに平和祈念式典



本市の戦没者に哀悼の意を表すとともに、再び戦争の惨禍を繰り返すことのないよう、恒久平和を祈念するため、庄原市戦没者追悼式並びに平和祈念式典を次のとおり開催します。

多くの皆さんの参加をお願いします。

とき 8月20日(木)10時～  
ところ 庄原市民会館

※当日は要約筆記による案内に加え、インターネットでの中継も行いますので、各学校、公民館(自治振興センター)などでもご覧いただけます。  
※各支所からの送迎バスを用意しています。利用を希望される方は、8月19日(水)までに各支所に申し込んで

- 【問い合わせ】  
社会福祉課障害者福祉係  
☎0824-73-1210  
西城支所保健福祉室  
☎0824-82-2202  
東城支所保健福祉室  
☎08477-2-5131  
口和支所民生生活室  
☎0824-87-2114  
高野支所民生生活室  
☎0824-86-2114  
比和支所民生生活室  
☎0824-85-3002  
総領支所民生生活室  
☎0824-88-3110

